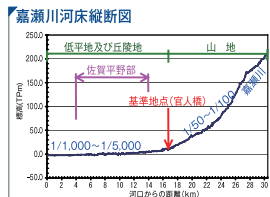


## 洪水から暮らしを守る (洪水調節)

嘉瀬川の下流の平野部は海拔0mという低平地であることに加え、背後地の脊振山系が急峻なことから降った雨が嘉瀬川などの河川を一気に流れ下るため、たびたび洪水被害が発生してきました。

そこで、降った雨を一時的にダムに貯めることで、下流の急激な増水を抑制し洪水被害の危険性を軽減することが出来ます。

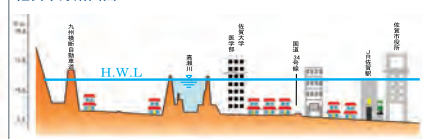


佐賀市内の浸水状況 (昭和28年6月)

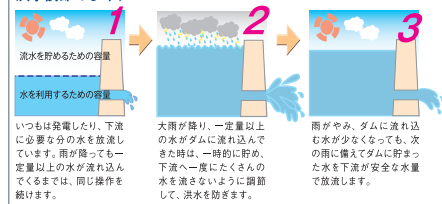


池森橋下流の洪水状況 (平成2年7月)

### 佐賀平野断面図



### 洪水調節のしくみ



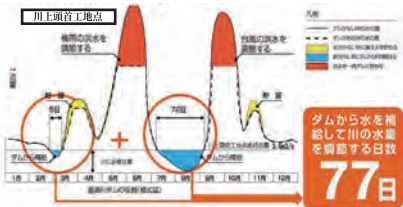
### 嘉瀬川流域の主な洪水と被害状況

洪水発生年月	原因	被害状況
昭和24年8月	台風	嘉瀬川の抜本的な改修の契機となった洪水 家屋全半壊543戸・家屋流失111戸 床上浸水11,559戸・床下浸水13,993戸
昭和28年6月	梅雨前線	床上・床下浸水31,032戸 家屋の流失・全半壊175戸
昭和29年9月	台風	床上・床下浸水3,045戸 家屋の流失・全半壊2戸
昭和30年4月	低気圧	床上・床下浸水2,648戸
昭和38年6月	梅雨前線	床上・床下浸水1,274戸 家屋の流失・全半壊115戸
昭和42年7月	梅雨前線	床下浸水402戸
昭和47年7月	梅雨前線	浸水家屋8,500戸
平成2年7月	梅雨前線	床上浸水1,783戸 床下浸水12,327戸
平成22年7月	梅雨前線	床下浸水1戸

## 干ばつの時でも川の自然や生態系を守る (河川の維持用水の補給)

日照り続きで川の水が枯れ、魚やその他の生き物たちが住めなくなる可能性がある場合は、ダムに貯めた

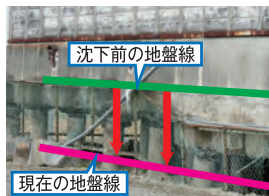
水を放流して、川らしい自然と生き物に良好な水辺環境を保全します。



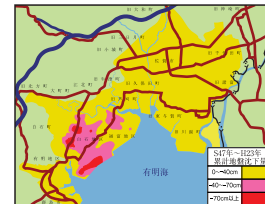
## 農業や暮らしを守る (かんがい用水の補給)

農業に大量の水が必要な佐賀平野では、水源となる嘉瀬川などの川の流量が少ないことなどから、地下水が利用されてきました。しかし、水分を多く含む軟弱地盤からの地下水の汲み上げすぎで、佐賀平野の西部

地区では地盤沈下が深刻な問題となっています。そこで、嘉瀬川ダムという新たな水源を確保することで、農業生産の安定化とともに地盤沈下の抑制も図ることができます。



営農倉庫 (昭和41年築造)



S47~H23年累計地盤沈下量

## 生活を守る (都市用水の供給)

1日最大で2,000m<sup>3</sup>の水道用水を佐賀市富士町へ、また3,000m<sup>3</sup>の工業用水を流域内の工場へ安定的に供給し、生活を支えます。



富士中央簡易水道事業



王子マテリア株式会社

## 環境を守る (発電)

ダムからの放流水を利用して最大出力2,800kwの電気を起こします。水力発電は、CO<sub>2</sub>を排出しないため、地球環境に優しい発電です。



嘉瀬川発電所 (九州電力)

約16,600MWHの発電が出来ます (一般家庭の約6,000戸分の年間使用電力量に相当します。)

